

ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2019 の結果概要
 -SDGs を地域で達成していくための人づくり：ESD for 2030 を見据えて-

ESD 推進ネットワーク全国フォーラム（以下「全国フォーラム」）は、原則毎年 1 回、ESD 推進ネットワークの主たるステークホルダーが一堂に集い、ESD に関する最新の国際動向、国内動向、ネットワーク形成の状況を共有するとともに、相互のつながりを構築・強化することにより、ネットワークが成長するための機会である。

2019 年は、ESD に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）の最終年であり、GAP 後継プログラムが国際的に策定される年であることを反映し、次のステップに進むための意見交換を中心としたプログラムとした。

- 主催 ESD 活動支援センター、文部科学省、環境省
- 共催 独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 後援 日本ユネスコ国内委員会
- 協力 ESD を推進する全国・地方の組織団体及び ESD 活動支援地方センター（44 団体）
- 出展：52 件
- 開催日時
2019 年 12 月 20 日（金）13:00-18:15、12 月 21 日（土）9:30-13:00
- 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
全体会：国際交流棟国際会議室 分科会：国際交流棟、センター棟
- 参加者 424 人（のべ人数）
 1. 地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）及び地域 ESD 拠点の登録に関心を持つ組織・団体
 2. SDGs 達成のための人づくりに関心を持つ ESD ステークホルダー（教育関係者、自治体関係者、NGO/NPO、公益法人等、企業、産業界、学生をはじめとする若者、メディア等、その他）
 3. 関係省庁
 4. ESD 活動支援センター（全国、地方）及びその関係者
- 目的
 1. ESD 推進ネットワークのこれまでの成果について確認する。
 2. ESD に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）の後継プログラムである「ESD achieving for SDGs (ESD for 2030)」を踏まえて、その国内実施に向けた提案につながる意見交換を行う。
 3. 参加者・参加組織・団体による連携の契機とし、全体として、ネットワークのさらなる発展に向けた機会とする。

■ 各セッションの概要

◆セッション1 ESD の国際動向・国内動向

文部科学省から、グローバルアクションプランの成果と概要、新学習指導要領のポイント、日本が海外に向けて発信している事例等の紹介が、環境省から第5次環境基本計画の根幹となる地域循環共生圏の考え方、ESD 推進ネットワークの取組状況、成果と概要のとりまとめの状況についての紹介が行われた。

◆セッション2 パネルディスカッション：SDGs を地域で達成していくための人づくりとそのためネットワークのさらなる展開

地域で ESD に取り組んでいる教育委員会、学校、社会教育施設、自治体、企業というセクター別の実践の例に学び、SDGs を地域で達成していくための人づくりについてパネルディスカッションが行われた。

◆セッション3 グループディスカッション：地域で ESD を広め、深めるための課題と工夫

参加者自身の ESD 実践や関心に基づき、ESD for 2030 の国内実施に向けて自分事として、セクターごとにグループを形成し、ディスカッションが行われた。

◆セッション4 分科会：ESD for 2030 を見据えた ESD 推進のあり方

5つの分科会で、ESD 実践に関わる話題提供を受け、様々な組織の視点から ESD for 2030 の国内実施計画の策定に向けての提案のために意見交換を行った。

分科会 1：新しい学習指導要領をふまえ社会とすすめる ESD

分科会 2：企業がめざす地域における SDGs 人づくり

分科会 3：ユースと共に進めるマルチステークホルダーの連携

分科会 4：体験活動を提供する組織内の ESD 意識醸成

分科会 5：AI 等の技術革新と教育・人材育成について考える

◆セッション5：全体総括

分科会成果を共有し、フォーラム全体をふりかえり、成果と今後の展望を共有した。

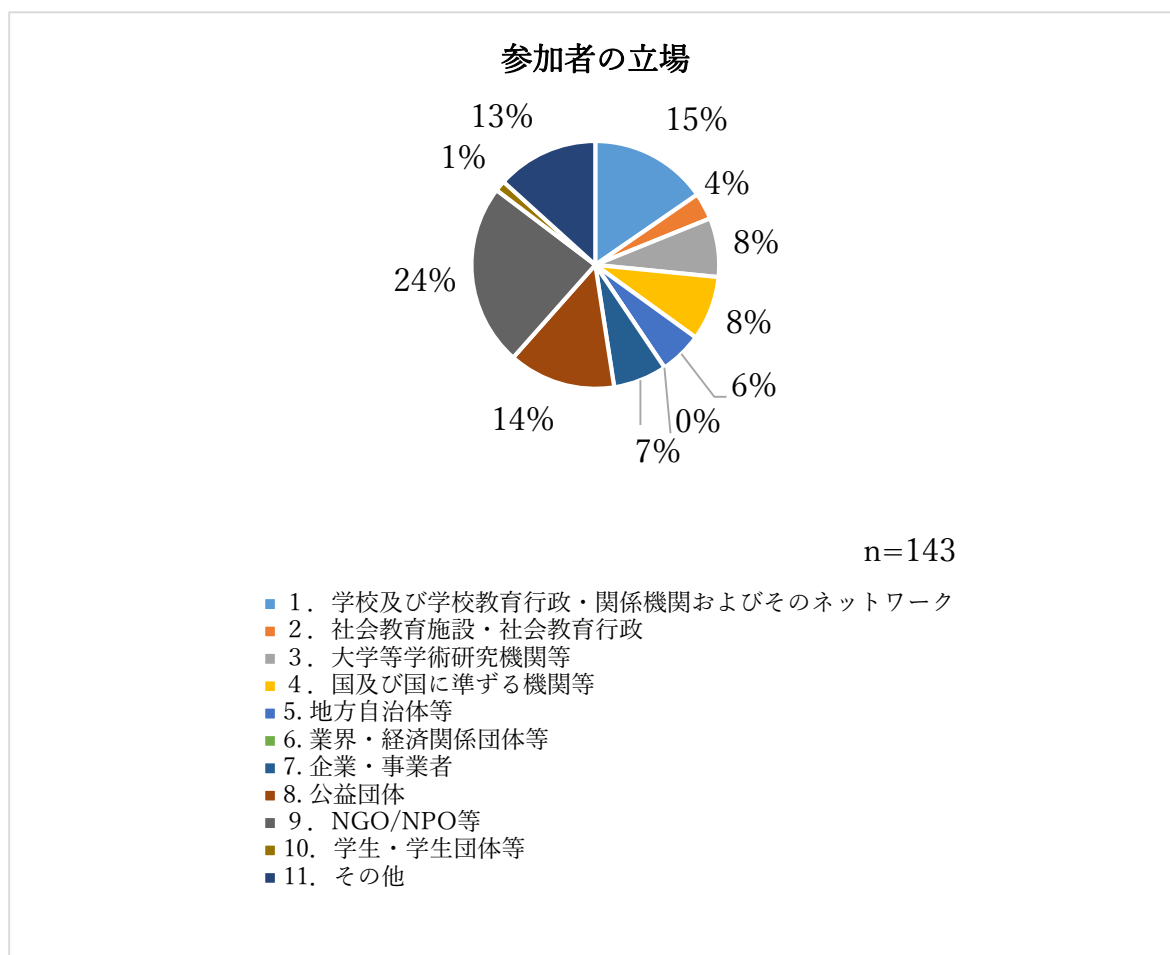
■ 参加者アンケート結果について

2019年12月20～21日にかけて開かれた ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2019 においては、延べ 424 人の参加が得られた。それらの参加者に対して行ったアンケートに対し、144 人から回答が得られた。参加者アンケート結果の概要は以下の通りである。

1. 参加者の属性

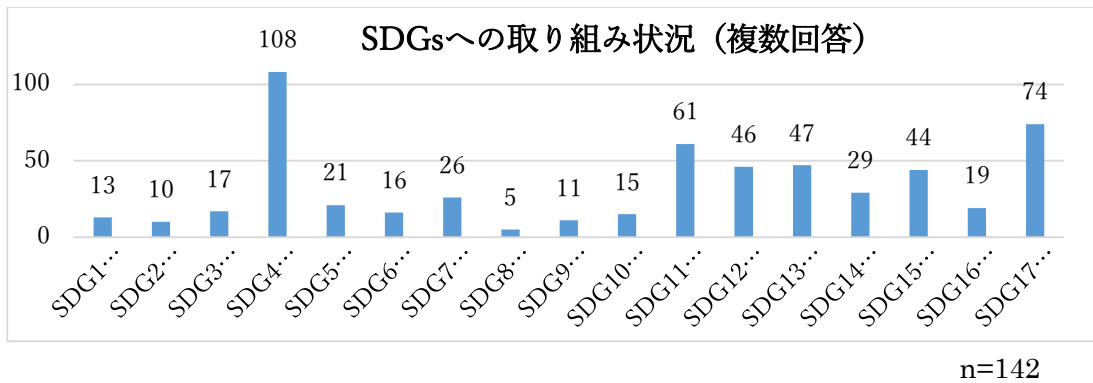
(1) 参加者の立場

参加者としては、NGO/NPO等（24%）が最も多く、学校関係者等（15%）、公益団体（14%）と続いている。幅広い参加者が得られているが、学生・学生団体等の参加が少ない（1%）。また、本年度初めて参加した者が全参加者の半数以上を占めている点、従前と比べて企業、企業団体からの参加が増加したことも特徴的である。



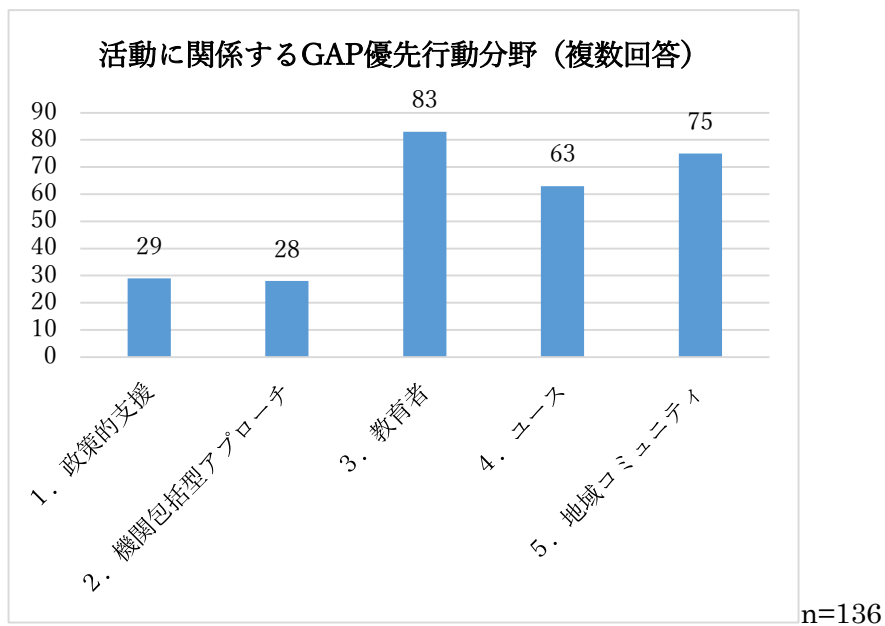
(2) SDGs への取組状況

SDGs4（教育）への取り組み（73%）が最も多く、SDGs17（パートナーシップ）（52%）が続いている。また、SDGs11（持続可能な都市）、SDGs13（気候変動）、SDGs12（作る責任、使う責任）などへの取り組みも多い。



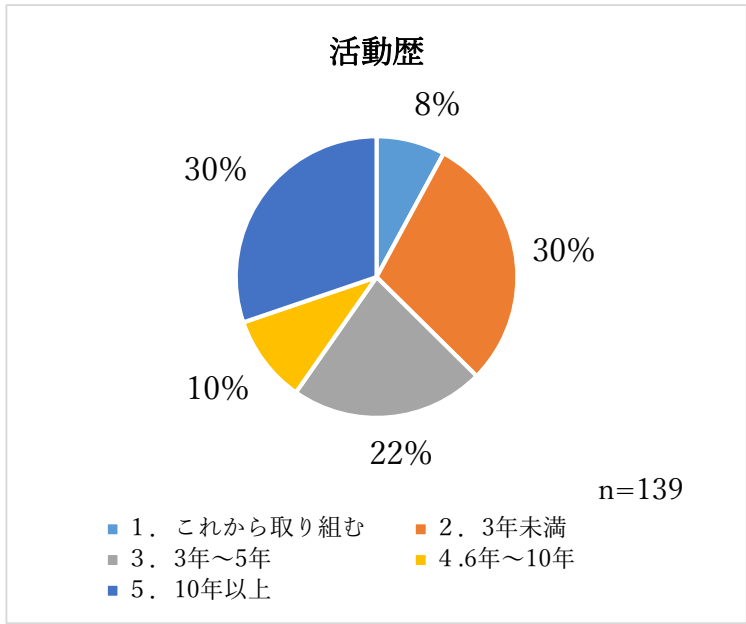
(3) 活動に関する GAP 優先行動分野

教育者 (61%)、地域コミュニティ (55%)、ユース (46%) への取り組みがその順に多い。



(4) ESD に係る活動歴 (経験年数)

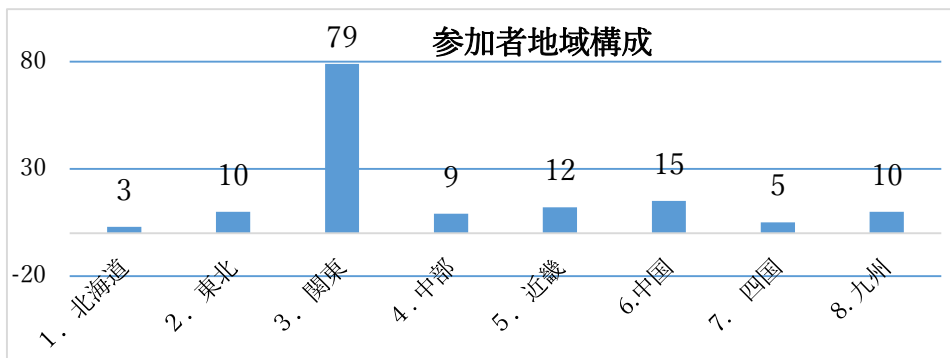
3年未満と10年以上との回答が最も多く (各30%)、3~5年 (22%) が続いている。全体的傾向は昨年度までと変わらないが、経験年数に関する顕著な違いが見られなくなっている。



n=139

(5) 参加者の地域構成

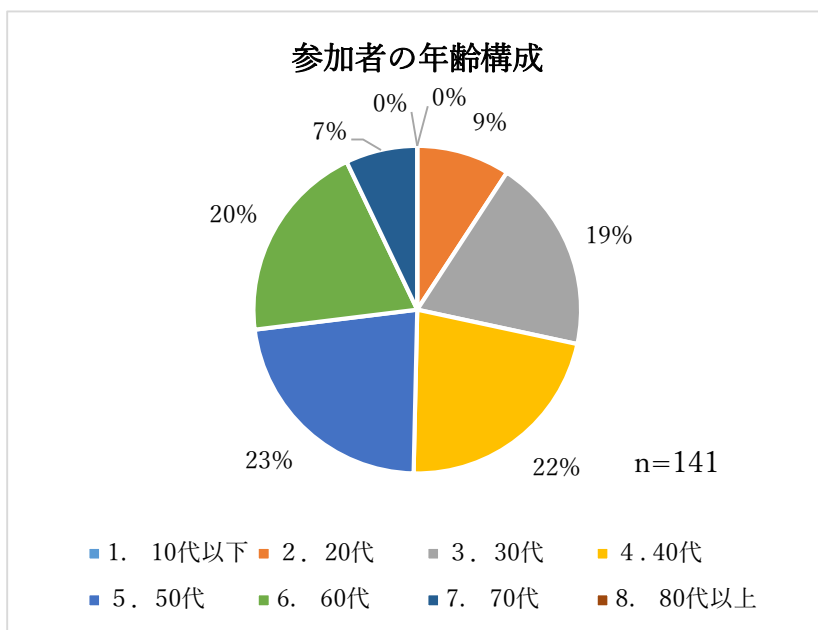
関東からの参加が圧倒的に多い（55%）。



n=143

(6) 参加者の年齢構成

30代～60代にかけてほぼ均等に分布している。20代が9%と少なく、10代以下が0%であることが特徴的である。

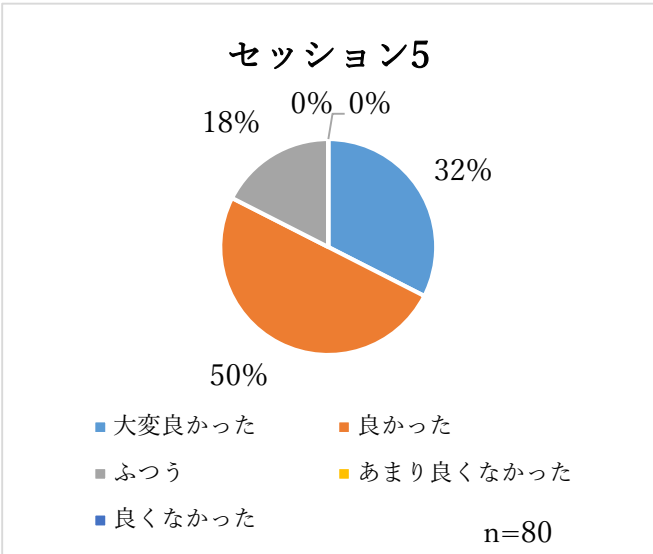
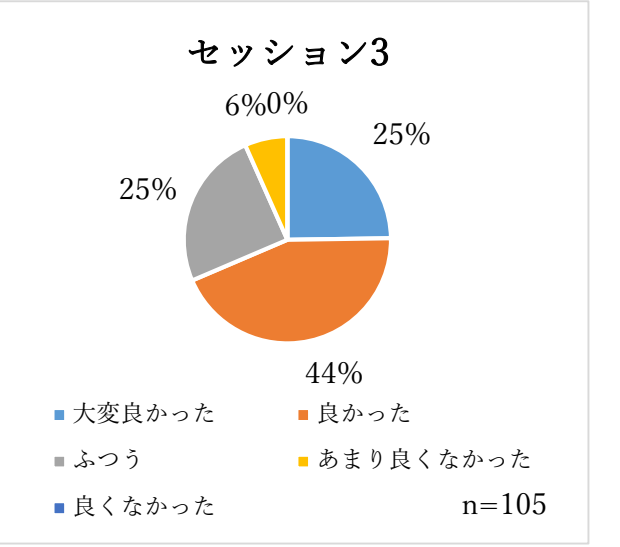
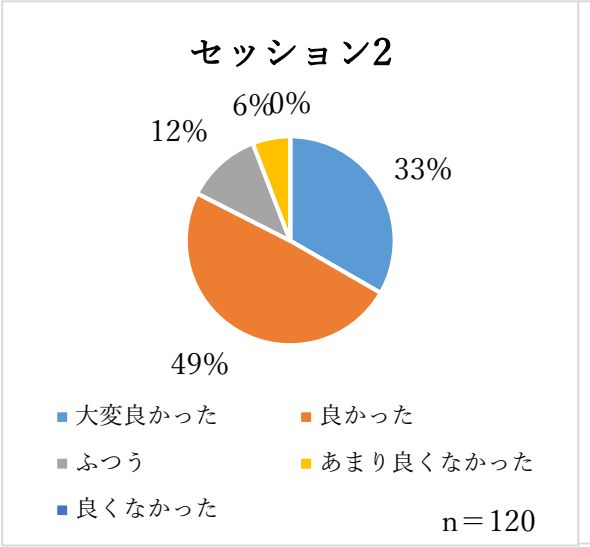
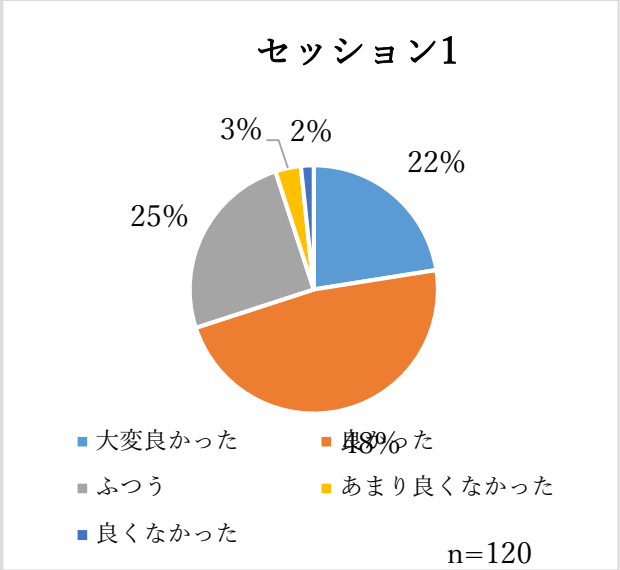
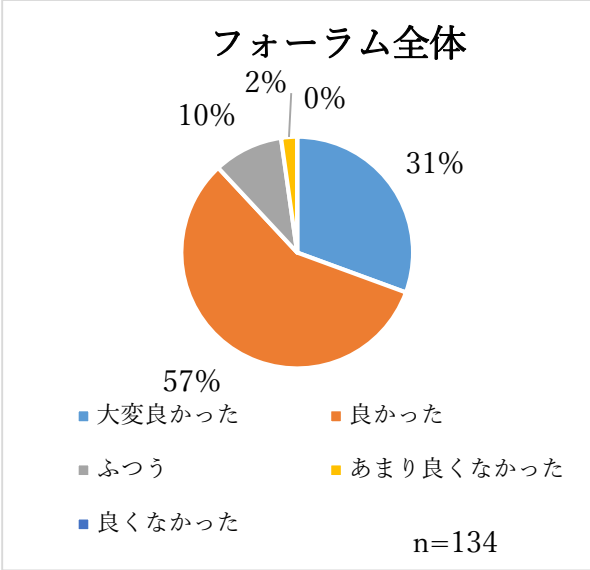


n=141

2. フォーラムに対する評価

(1) 全体評価及びセッションごとの評価

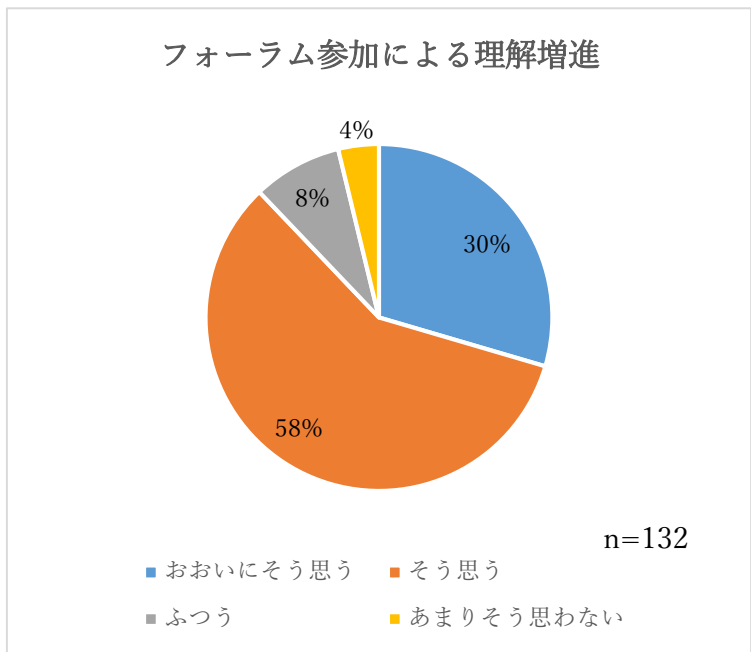
フォーラムに対する参加者の評価は以下の通りである。フォーラム全体として、「大変良い」、「良い」を合わせて88%という高い評価を得た。また、各セッションもそれぞれ高い評価を得ている。なお、セッション4分科会については回答数が少ないため、このような評価はしていない。



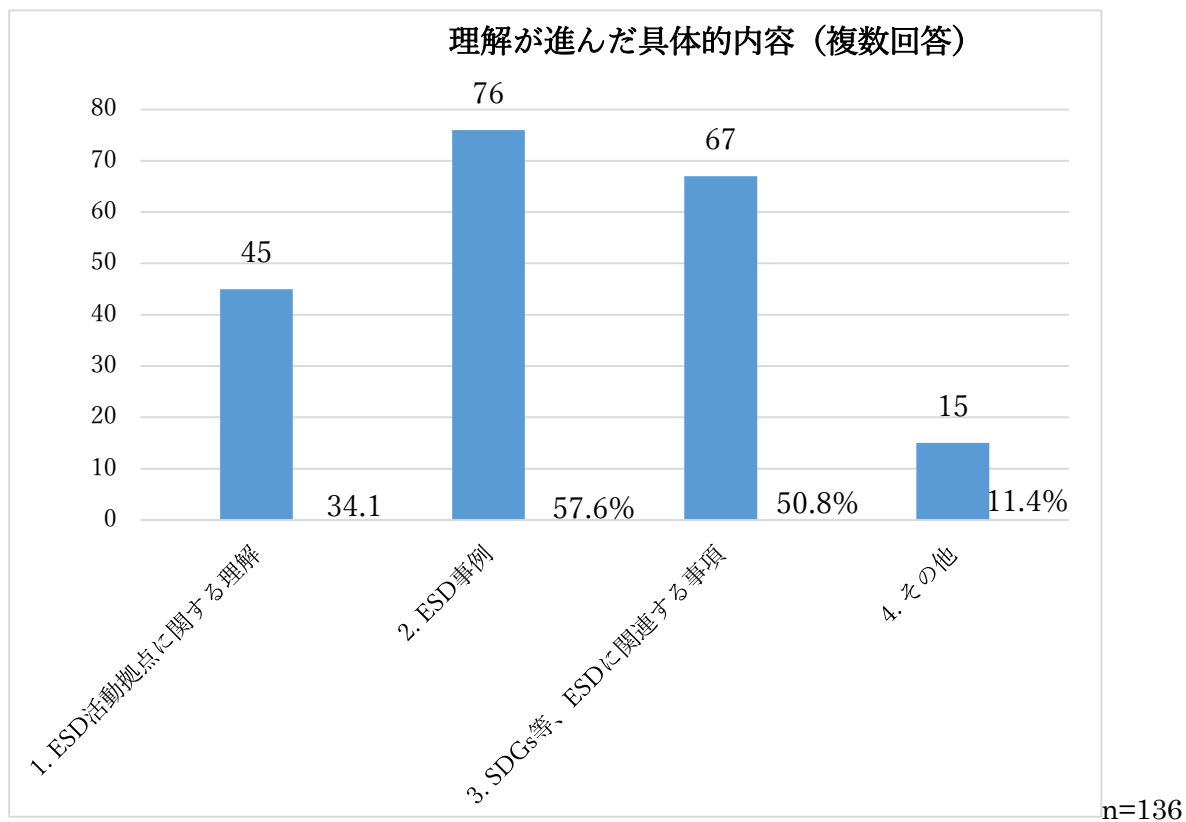
(2) フォーラムに参加して得られたもの

①フォーラムによる SDGs、ESD に対する理解の増進

フォーラム参加の成果として、多くの参加者が SDGs や ESD に関する理解が深まったと評価している（「大いにそう思う」と「そう思う」を合わせて 88%。）。

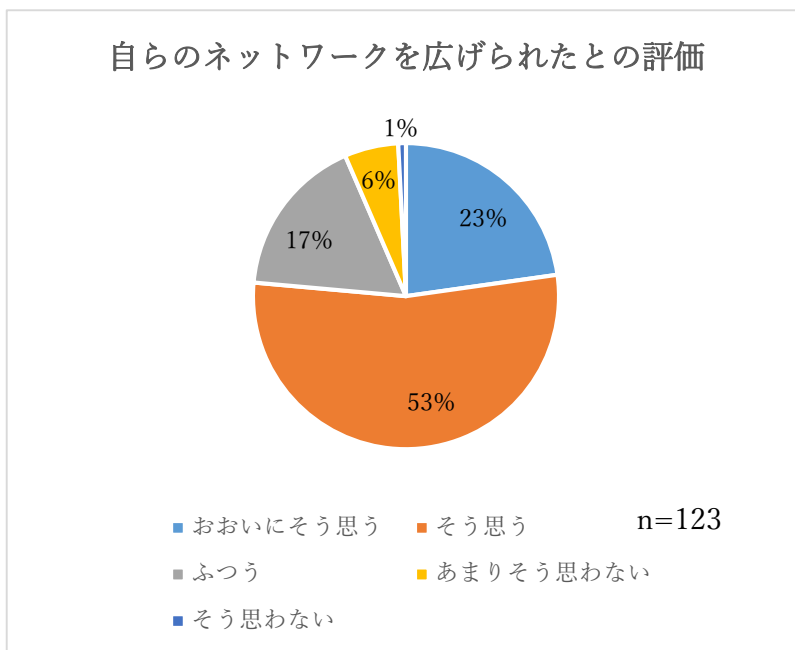


具体的には、ESD の事例を学べたこと、SDGs、ESD に関連する事項について学べたことが高く評価されている。

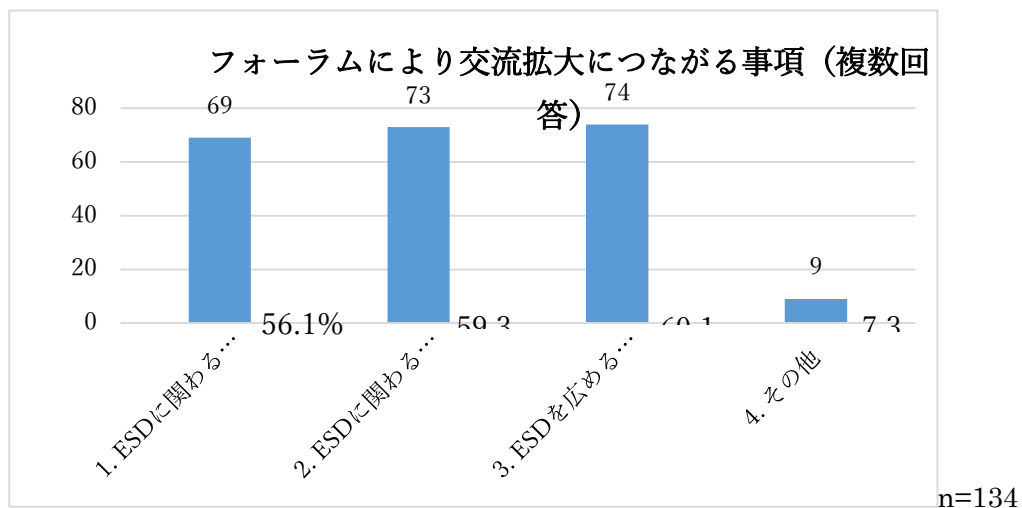


② ESD ネットワークの拡大

フォーラム参加の成果として、自らの ESD ネットワークを広げられたことが高く評価されている（「大いにそう思う」と「そう思う」を合わせて 76%）。



具体的には、ESD を広める情報・機会を得た（60.1%）、ESD に関わる人たちを知ることができた（59.3%）、ESD に関わる人たちと交流できた（56.1%）などが高く評価されている。



■ 総括

- 本フォーラムには全国各地からのべ 424 人が参加した。これは 2018 年度のものべ 369 人、2017 年度のものべ 260 人を大きく超えるものである。
- 参加者のほぼ半数が今回初めて全国フォーラムに参加した者であること、企業、自治体からの参加者が目に付いた点特徴的といえる。これは SDGs の浸透とも関連するとの指摘もある。
- 「GAP の後継プログラムである ESD for 2030 を踏まえて、その国内実施に向けた提案につながる意見交換を行う。」という目的に照らして、議論がうまくスタートができたと評価できる。
- 会場後方及び前室で国、公益法人、NGO/NPO、企業等から 52 件の展示がなされた。これは前年とほぼ同数の展示であり、展示ブースを用いた広報が定着したと考えられる。
- 参加者アンケートから、以下の点が明らかになっている。
多くの参加者が
 - ① 今回のフォーラムのセッションが良かったと評価している。
 - ② 全国フォーラムに参加したことにより、ESD に関する理解が進んだと考えている。
 - ③ 全国フォーラムに参加したことにより、自らのネットワークを広げることができたと考えている。

